

「日々の理科」(第2662号) 2021, 10, 27
「アナグリフ多摩川源流への旅(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

https://maps.gsi.go.jp/#14/35.527686/139.768410/&base=std&ls=std%7Canaglyphmap_gray%2C0.56&blend=0&disp=11&lcd=anaglyphmap_gray&vs=c0j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f2

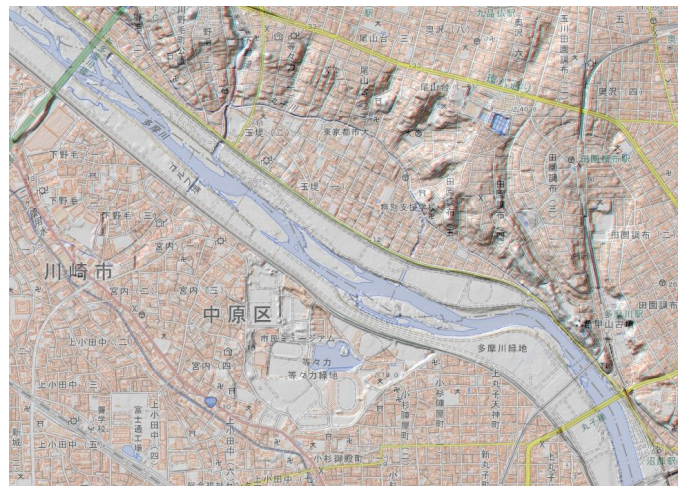
上記の「国土地理院地形図閲覧サービス」で作ったURLをクリックすると、最初に表示されるのは、多摩川の河口付近の立体視画像である。



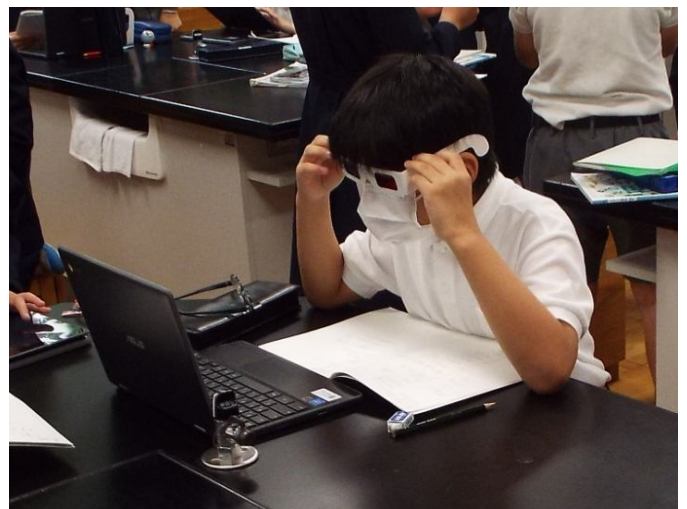
アナグリフ用の色がついた地形画像に、地形図が重なって表示されるように設定してある。多摩川の河口は、東京都大田区と神奈川県川崎市の境界にあり、大田区側は羽田空港(東京国際空港)がある。



河口付近はほとんど起伏がなく、アナグリフ用のメガネで見ても、地形はほとんど立体的には見えない。それでも、PC画面から少し離れると、堤防や埋め立て地のわずかな起伏が見えてくる。



多摩川の河口付近から、本流に沿って少し「遡上」すると、北側(東京都側)の段丘崖や、段丘崖の浸食地形(等々力溪谷など)が現れ、急に立体的に迫ってくる。



ほとんどの子どもは、アナグリフによる立体視は初めてのようで、歓声をあげながら、クロームブックの画面に食い入るように地形を観察していた。



平面のはずの地形画像が、まるで画面から数センチ飛び出すように見えるので、どうしてもその「地形」を触ったり、つかんでみたくなるようだ。